

喜田議員 皆さん、おはようございます。はじめに、新型コロナウイルス感染症がなかなか収まらない中、町長をはじめ職員の皆様、特に健康生活課の皆さまのご尽力により、新型コロナワクチンの接種も年齢区分や基礎疾患の方など、細かく分けられ、速やかに行われているようです。今後、加速化が進み、集団接種なども含め、接種を希望される町民の皆様全員が早急に完了することを目標に、引き続きご尽力をいただきますことをお願いし、質問に移らせていただきます。それでは、事前に通告していましたが、次の2点についてご質問させていただきます。まず最初に、シルバー人材センターの支援について、質問させていただきます。牟岐町社会福祉協議会により運営されています、シルバー人材センターは、平成24年に設立され、今年で10年目の運営となります。これまでの運営には、徳島県及び牟岐町からの補助を受けており、今年度は県・町、合わせて補助金額が240万円で、その半分は牟岐町からの補助となっているとお聞きします。組織の仕組みなどの関係上、設立より11年目の令和4年度よりランクがAランクに上がり、来年度からは公益社団法人での運営にならないと、徳島県からの補助が受けられなくなるとお聞きしました。現状では、公益社団法人化は、難しいとのこと、現行の牟岐町からの補助金とシルバー人材センターの会員の会費や事業収入では、今までどおりの運営が厳しくなり、来年度は、シルバー人材センターの事業から撤退も余儀なくされる状態だと伺いました。このような状況になると、一番困るのが町民の皆様です。これまで町民からの信頼で、シルバー人材センターが請け負ってきた事業などが、大小合わせて、年間約400件余りになるとのことですが、今後、これら様々な事業の請負が行えなくなる可能性があります。現在、牟岐町内には「便利屋サービス」などの事業者が存在しないため、今まで利用してきた軽作業などのサービスを依頼する相手先がなくなることで、町民の皆様への負担も大きくなってしまいます。また、シルバー人材センターで従事されている会員の皆さんの就業機会を奪うことにもつながります。シルバー人材センターの運営については、今後の請負金額などの検討も必要になってくることも考えられますが、今後もこ

の組織を守り、継続させていかなければならないと思います。牟岐町として、町民の皆様のためにも、来年度からのシルバー人材センター運営への補助金の増額など、支援が必要だと思いますが、これらのことについて、今後どのように進めていかれるのかお聞かせください。よろしく申し上げます。次に、広報むぎの読者を増やす手段について、お伺いします。現在、一年間に4回発行されている「広報むぎ」について、町民の皆様のご意見を聞きますと、次のように「文字数が多く読み辛い」、「お知らせなどが多くおもしろさに欠ける」また「あまり読むメリットがない」などの声も聞かれました。中には、「補助金制度や支援などの必要な情報が得られる」と、しっかりと読んでいただいているご意見もありました。この広報誌の発行にあたっては、総務課をはじめ各課の担当者、また、議会広報編集委員会が掲載内容を吟味しながら行っています。町民の皆様への大切な情報がたくさん盛り込まれている「広報むぎ」をもっと手に取っていただき、読んでいただけるような対策に取り組んではいかがでしょうか。例えば、「広報むぎ」の掲載内容を読まないと言えられないような手段の幾つかの問題を誌面上に掲載し、その答えを募集する。そして、それを応募すると抽選で数名の応募者に防犯グッズや商品券などの品物が提供されるようなオープン懸賞的な企画を行ってはどうか。毎号での開催は難しいかも知れませんが、周期的に開催し、「広報むぎ」に対する町民の皆様の魅力意識を高め、もっと手に取っていただけるような試みはいかがでしょうか。コロナ禍の中、在宅時間が長くなっていることもあり、「広報むぎ」の読者を増やすチャンスでもあると思いますが、このようなことについて、ご見解をお聞かせください。よろしく申し上げます。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 シルバー人材センターへの支援につきましては、大森副町

長からご答弁をさせていただきます。私からは、喜田議員ご質問の「広報むぎの読者を増やす手段を」のご質問にお答えします。牟岐町の広報誌「広報むぎ」については、昭和58年9月の第1号からこれまで、広報編集委員会の皆様をはじめ、関係者の努力により、見やすさを追求するとともにどのようにしたら読んでもらえるか、日々紙面の改善を図ってきたところです。発刊当時と現在の紙面を比較すると書体を変え、太字・細字を織り交ぜ、写真の配置、余白にも配慮するとともに、新たに関心を寄せてもらうために「ピックアップむぎ」というコーナーを設けて、町内で活動している団体を紹介するなど広報編集委員会などのご意見を取り入れその都度、内容の向上に努めているところです。発刊当時と現在の紙面を比較するとかなり見やすくなっていると思いますが、日々改善を重ねていく必要があります。広報誌の役割は、行政の制度施策の発信や住民へのお知らせ等が主な内容となっています。広報クイズの提案ですが、広報の内容を読めばわかる簡単なクイズを出して、はがきなどで応募していただき、正解者に賞品を贈っている市町村も一部あります。この方法が広報むぎの読者を増やす手段として、有用性があるかどうか。広報クイズを実施しています市町村に効果の有無を確認したいと考えています。以上です。よろしくお願ひします。

一山議長 大森副町長。

(大森副町長 登壇)

大森副町長 おはようございます。私から「シルバー人材センターへの支援を」についてお答えさせていただきます。牟岐町シルバー人材センターは牟岐町社会福祉協議会が町の受託事業として運営しています。健康で働く意欲のある高齢者を対象に経験と能力を活かし、会員に適した仕事の開拓を行い、センターが仕事を受け、会員の希望に応じて仕事をお願いしています。その仕事に応じて配分金を会員にお支払いしています。令和2年度の実績では、会員登録数46人、う

ち（男性18人、女性28人）となっています。受注状況ですが、412件、そのうち派遣の事業が8件となっています。会員配分金としまして、472万9,390円となっています。手頃な金額で仕事が頼めることから年々、受注件数は伸びていましたが、2年度は新型コロナウイルス感染症の影響か若干件数が減っています。牟岐町シルバー人材センターの特徴は女性会員の比率が高く、高齢者や独り暮らしの方の家事や、病院への付き添いといった仕事が多いことです。また、年間を通じて草刈、木の伐採が多くを占めています。牟岐町としても、議員がおっしゃる通り、仕事を依頼される方や会員の生きがいとなる事業をやめることはできないと考えています。設立から10年を過ぎた来年度から県の補助がなくなりますが、社会福祉協議会と町補助金の増額も含め、協議を重ね、事業の継続を図ってまいります。以上です。

一山議長 喜田議員。

喜田議員 ご答弁いただき、ありがとうございます。シルバー人材センター運営におきましては、大森副町長のご答弁により、大変前向きに考えていただいているように思います。引き続き、厳しい財政状況ではありますが、町民の要望に応えることができますよう、よろしくお願い申し上げます。また、町長よりご答弁いただきました、広報誌につきましては、住民の日常生活を支える牟岐町の様々な情報を発信していることもあり、今後もいろいろな工夫をこらしながら、広報誌の読者を増やすことができるような企画をお願いしたいと思えます。私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。